

「植物の発芽、成長、結実」
～自然の事象・現象についてより深く理解する～

第5学年

「植物の発芽、成長、結実」について学んだことを振り返り、児童があらかじめ持っているイメージや素朴な概念などを、より妥当性の高いものに更新していく場面



身の回りのことについて知っていたことや考えていたことが、この学習をしたことによって、より詳しくなったり深まったりしたことはありますか。



スイカは種が入っているので、実のなどは考えていました。スイカの「へそ」をよく見ると、傷跡のようなものが見え、反対側は、つるが付いていた跡のようなものが見えました。傷跡のようなところには、花がついていたのだと思いました。



ビニールハウスで野菜が栽培されていたことは知っていましたが、花粉を花から花に運び、受粉の手助けをするクロマルハナバチという昆虫が販売されていて、ビニールハウスの中の野菜や果物を育てるのに、役立っていることが分かりました。

調べたことと学んだことを整理しよう。

実の中に種子ができる

花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になる

花にはおしべやめしべなどがある

風やこん虫などによって花粉が運ばれて受粉し結実する植物もある



サヤエンドウは食べ物としか思っていませんでした。でも、筋取りを手伝っていたとき「がく」のようなもの、その反対側にはめしべのようなもの、中には種子のようなものを見つけました。サヤエンドウは花の後にできた実ののだと思いました。



トウモロコシの食べる部分は、実なのだろうと何となく思っていました。学習したことを基に見直すと、トウモロコシの「ひげ」は、実につながっているので、めしべなのではないかと予想しました。調べてみると、めしべということが分かりました。実と同じ数だけ「ひげ」があるそうです。



タブレット型端末などを活用して、実際に調べたことを撮影した映像やインターネットの情報を基に調べたことについて共有し、それらや学んだことを並べ替えたり線で結んだりして整理できるようにすることが大切である。

【StuDX Style関連事例】



【使用するソフト（例）】

OS標準のプレゼンテーションソフト			
	Keynote	スライド	PowerPoint
OS標準のデジタルホワイトボードソフト			
	Jamboard	Whiteboard	

知識をより深く理解できるようにするためには、複数の対象について調べ、調べたことを関連付けることができるようにすることが重要です。

学習指導に当たっては、児童があらかじめ持っているイメージや素朴な概念などを、より妥当性の高いものに更新していく場面を設定することが大切です。

例えば、植物の発芽、成長、結実について、1人1台端末などを活用しながら、あらかじめ持っていたイメージや素朴な概念と、学習したことを意味付けたり関連付けたりして、それらを説明し、理解を深める学習活動も考えられます。

その際、**共同編集機能を活用することで、相互に考えを見合ったり、自分の考えと比較して新しい考えを発見したりし、理解を深めることができます。**

また、作成したスライドなどのデータをクラウドに保存しておくことで、教師だけでなく児童自身も、**学習過程を振り返ることで考えや理解を深めることができます。**